

津波慰霊碑

八木漁港の手前、防潮堤近くに昭和の三陸地震大津波の犠牲者を悼む石碑があります。



『想へ惨禍の三月三日』と刻まれたこの石碑が建立された昭和9年(1934 年)から、毎年3月に慰霊祭が執り行われているそうです。

そこから、港に向かって進んで、踏切の手前を左に曲がると共同墓地があります。

その入り口付近に、明治と昭和、2つの三陸地震大津波の惨状と犠牲者を伝える石碑が…

明治の大津波では、当時の地区の人口の半数近くの126名の方が、昭和の大津波では79名の方が犠牲になりました。

犠牲となった方々の名前と、被害の状況を伝えるとともに、強い地震や、井戸水、海水に異常があったなら、油断せずに高所に避難した方がいいという忠告が刻まれています。

津波をはじめ、自然災害の恐ろしさが風化せずに後世に語り継がれてほしいものです。

